

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

スワジランド王国

シェウラ地域開発プログラム(SWZ-186252)



ADPから提供されたソーラーライト
これで夜も勉強できるようになりました

ADPから提供された農機具を持って
畑に向かうムファナシビリ君(12歳)

チャイルドストーリー

新しい農機具とソーラーライトが 日々の生活の大きな助けになっています

シェウラ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域に住むムファナシビリ君は、父親と祖母と一緒に暮らしています。母親は何年も前に家を出て行ってしまいました。父親は障がいがあり、ほとんど外出することができないため、ムファナシビリ君は祖母と一緒に畑を耕し、野菜を栽培しています。

ADPは、支援地域内で小規模農業を営む特に貧しい100世帯に、手押し車や鋤、鍬などの農機具を提供し、ムファナシビリ君の家庭も機具を受け取りました。「朝起きて、おばあちゃんと畑に行き、水やりをしてから学校に通っています。学校から帰ってきてからも水やりをします。新しい農機具を

使って、畑をもっと大きくしたいです」と語るムファナシビリ君。祖母のロマカラさんも、「以前は1本しかない古い鍬で畑仕事をしていて、ほかの道具が必要な時は近所の人に借りなければなりません。新しい農機具を提供してもらい、農作業がずいぶん楽になりました」と喜んでいました。ムファナシビリ君の家庭は、ソーラーライトの提供も受けました。「これで私の息子が勉強ができます。以前はろうそくを買うお金がないこともありましたが、ソーラーライトのおかげで夜の明かりに困らなくなりました」と話す父親のジェフリーさん。支援により、生活の問題が一つひとつ解決されつつあります。

教育プロジェクト

授業の質をあげる取り組みがなされています。

スワジランドでは、一部の学校でICT（情報通信技術）教育を授業に取り入れるようになってきています。ADPでも、2014年度は15人の指導者に、ICT教材活用のためのトレーニングを行いました。トレーニングを受けた指導者は、今後小学校の教師に対して研修を行う予定で、授業の内容に多様性が出るのが期待されています。

また、地域内の小学校の7つの教室の修理と、机200脚、イス530脚の提供を行い、多くの子どもたちの学習環境が整ってきました。改善された学習環境を維持するため、保護者をはじめとする地域の人々に施設管理についての積極的な参加を促しています。2014年度は、423人の人々が施設管理の

研修を受けました。

さらに、子どもたちが小さいうちから農業の技術を身につけ、仮に中等教育に進学できなくても生活できるように、2つの小学校で学校菜園に取り組んでいます。この取り組みは、子どもたちの生きていく力を培うだけでなく、収穫物を学校給食に使うことで、子どもたちの栄養改善にも役立っています。



15人のチューターが
ICT教材について学びを深めました



新しい机とイスで勉強する子どもたち



ADPの支援で完成した教室

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

また2014年度は、423人の子どもたちが子どもの権利と保護について学ぶ集会に参加しました。子どもたちが早婚や早期妊娠に関する知識を得る機会も設けました。今後は、これらの学びをもとに、子どもたちが必要な時に周囲に助けを求めることができるようになることと、地域全体が子どもたちの成長のために安全な場所となっていくことが期待されています。



子どもの権利と保護について学ぶ集会に参加する子どもたち



ADPスタッフ・インタビュー

Q.ADPでどのような仕事をしていますか。

新しいチャイルドの登録や、登録されているチャイルドの定期的な訪問と成長の確認、成長報告やクリスマスカードの作成などを担当しています。地域の子どもたちや家族がADPの活動に参加するよう促したり、活動の計画、実施、実施後の反省点の振り返りを行ったりもします。

Q. 仕事をする中で大変なことは何ですか。

隣国の南アフリカに仕事を求めて移住してしまう家

族が少なくないことです。地域の発展のためには、地域の人々の継続的なADPの活動への参加が重要であることを伝えていますが、移住を選ぶ人々もいるのが現実です。

Q. この仕事を続ける原動力となっているものは何ですか。

子どもたちの健やかな成長のために働けることに働き甲斐を感じています。



シェウラADPスタッフ ジュビリー・ムランボ (27歳)

会計報告

SWZ-186252

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

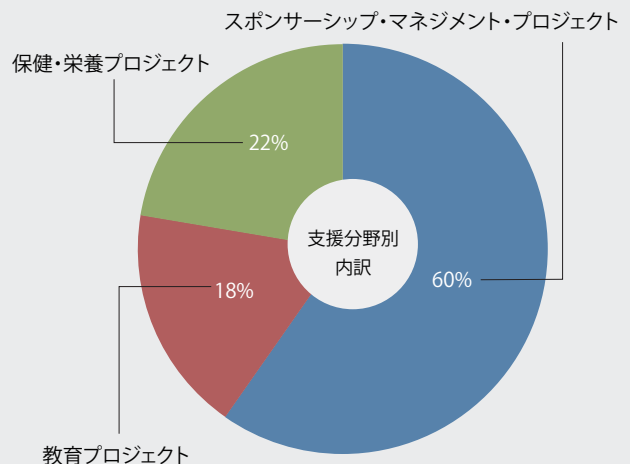
プログラム支援額 (単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	50,528,682
当期支援額	50,528,682
前期繰越金	5,224,091
プログラム支援額合計	55,752,773

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	33,847,438
教育プロジェクト	10,166,751
保健・栄養プロジェクト	12,661,521

プログラム支出額合計	56,675,710
次期繰越額	-922,937



2014年は、ADPの各活動を効果的に行うため、計画や予算について見直し・調整を行いました。この費用が含まれているため、スポンサーシップ・マネジメントの割合が高くなっています。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)

FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp

e-mail：dservice@worldvision.or.jp